
零の錬金術師

黒崎しのぶ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

零の錬金術師

【Nコード】

N9457Y

【作者名】

黒崎しのぶ

【あらすじ】

気づいたら、中將になっていて、軍の狗で、記憶がなくて……！？
生きながらもアメストリスの歴史に名を刻む、
天才錬金術師、「イリア・レッドスピア」に
転生した主人公がその場で色々頑張っている話。

第一話

「う…………ぐう……………」

目が覚めた。

それ以外何でもない。

ただ目が覚めた。

いつもと同じ。

だけど、何か違う気がした。

天井の色が、無機質な白だった。

確か、私の部屋は、薄いレモン色だったと思うんだけど……

「……………」

私。

それは自分のことをさす言葉。

私。

私は、誰……………？

血が下がっていく気がした。

私は誰？ここはどこ？

「記憶喪失……………」？

とりあえず、上半身を起こしてみた。

頭がクラクラするが、大した問題ではない。

私はソファに寝ていたみたいだ。

革製の奴で、とても冷たく心地よい。

何かの部屋みたいだ。

デスクが一台置いてあり、資料がたくさん置いてある。

ん、ちよつとまで。『イシユヴァール』で書いてあるのは気のせい
か？

私は体を起こし、その資料を手にとってみる。

パラ……と音を立て、ページがめくれる。

「本物……………」

これはハガレンじゃないですか、隊長！（混乱中）

どうしよう、ていうかなぜ自分のことは覚えてないのに

漫画のことは覚えてんのさ。

「とりあえず」

どうしようか。

そんなことを思っていると、ドアがガチャリと音を立てて開く。

「――！？」

首がもげんばかりの勢いで振り向いた私に、ドアを開けた本人、

リザ・ホークアイは目を大きく見開く。

……ここまで来て夢オチだというのはただの逃げるため口実だよね。

「どうされたのですか？ 中将」

そうか私は中将か。

ということはリザより上だな、階級。

「いや、何でもない。それよりか、私はさっきまで何をしていた？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9457y/>

零の錬金術師

2011年11月28日09時55分発行